

カンキツ苗木の生育で問題となる害虫2

現在、苗木育成中に問題となるチョウ目害虫の対策に取り組んでいるが、チョウ目以外にも同様の被害を出す害虫があり、対策が異なることから、それらの害虫を紹介する。

クワノミハムシ



新梢に不規則に穴をあける。発芽初期に被害をうけると、葉縁部を中心に葉がぼろぼろの状態になったり、葉裏を表側にして巻き込んだりすることがある。登録薬剤はないが、オリオン水和剤40の効果が高かった事例がある。

ツマグロハギカスミカメ



新梢に小さな穴をあける。発芽直後の激しい加害では、先端が黒変落葉することもある。虫は小さく俊敏で、見逃しやすい。カメムシ類登録薬剤の効果がある。

スグリゾウムシ



6月から10月頃発生。新梢を加害すると葉がなくなることもある。硬化葉では葉の外側から食害し、ギザギザの特徴的食害痕を残す。コテツフロアブルの登録がある。

対策上の留意点

- 新梢発生初期の集中的加害は被害が大きいので注意が必要である。
- スグリゾウムシ、クワノミハムシは、モスピラン顆粒水溶剤、アドマイヤーフロアブル等苗木で使用頻度の高い薬剤の効果が低い。
- 一度見られた場所では繰り返し出る可能性があるため、注意が必要である。